



開館 30 周年・千葉開府 900 年記念 千葉美術散歩

会 期 2025年11月1日(土)～2026年1月8日(木)
 開館時間 10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで)※入場受付は閉館の30分前まで
 休 室 日 毎週月曜日(祝日の場合は開室、翌火曜日は閉室)、年末年始(12月28日～1月3日)
 観 覧 料 一般1,200円(960円)、大学生700円(560円)、小・中学生、高校生無料
 ※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※()内は前売り、市内在住65歳以上の方の料金 ※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ、ローソンチケット(Lコード:36008)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて10月31日まで販売(11月1日以降は当日券販売)。
 ◎ナイトミュージアム割引:金・土曜日の18:00以降は観覧料半額
 ◎11月3日(月・祝)は30周年の開館記念日につき観覧無料
 ◎本展チケットで5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」もご覧いただけます。

主 催 千葉市美術館

ビゴーが遊んだ海、一村が歩いた野——
 「場」と「時代」をつなぎ千葉のアートシーンをみわたす美術地図をえがきだす

概要

開館 30 周年を記念し、千葉市美術館が在る千葉という「場」をテーマとする展覧会を開催いたします。

時代は明治期から現代まで、「場」はジョルジュ・ビゴーの滞在や海気館で知られる稲毛、黎明期の洋画家・堀江正章が指導を行った旧制千葉中学校、画家・無縁寺心澄が描いた市内各地の建物や風景、田中一村がその四季折々を見つめた千葉寺町の周辺、戦後の千葉アートシーンの一拠点となった国松画廊、そして昭和 2 年(1927)に川崎銀行千葉支店が建設され、建築家・大谷幸夫がそれを包み込む形で設計した千葉市美術館など。

こうしたいくつかの「場」を展覧会の各章に設定し、所蔵品を中心に関連する作家一柳敬助や石井林響、板倉鼎、濱田清治、遠藤健郎、椿貞雄、田岡春径、深沢幸雄らとその絵画作品を取り上げることで、千葉の美術地図の作成を試み、千葉市美術館を介して過去と未来が地続きに繋がるさまをご覧いただきます。

記者レクチャー・内覧会／開会式・テープカット

一般公開に先駆けて報道関係の皆様を対象に、記者レクチャーおよび内覧会を開催し、会期初日の開館前に開館 30 周年と展覧会の開催を記念して開会式およびテープカットを行います。

記者レクチャー・内覧会 2025 年 10月31日(金)14:00(13:30開場)～16:00／8階展示室にて

開会式・テープカット 2025 年 11月1日(土)9:30～10:00／1階さや堂ホールにて

参加ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、メールまたは FAX にてご連絡ください。

本展の見どころ

●ビゴーの描いた稲毛、田中一村が暮らした千葉寺、無縁寺心澄が歩いた都川…

千葉ゆかりの作家とその絵画作品で千葉の美術地図をえがきだす

千葉市美術館は1995年11月3日に開館し、本年度開館30周年を迎えます。1万点を超えるコレクションの中で、本展では「千葉市を中心とした房総ゆかりの作家」に着目し、千葉ゆかりの作家とその絵画作品で千葉の美術地図をえがきだします。とくに明治時代に観光地や保養地として栄えた稲毛や、田中一村(1908-77)が地域の支援者と交流しながら画風を模索した千葉寺町、都川や図書館など千葉市内の風景を多く水彩画に残した無縁寺心澄(1905-45)などの作品・資料約300点をとおして千葉市域のあゆみと展示を織り交ぜ、社会状況とアートシーンをつなげて紹介します。

●旧制千葉中学校における美術教育を紹介

県立千葉高等学校の前身である旧制千葉中学校にて明治30年から図画教師として美術を教えた堀江正章(1859-1932)は、明治11年に工部美術学校に入学し、イタリア人教師サン・ジョヴァンニに学んだ近代洋画家の先駆けとなる人物でした。多くの後進を育て、柳敬介、大野隆徳、菅谷元三郎、板倉鼎、遠藤健郎ら千葉ゆかりの画家を輩出しました。本展では堀江の作品を東京藝術大学よりお借りするほか、県立千葉高等学校からは堀江に学んだこれらの学生の作品など約30点をお借りし、展示します。

●建築家・大谷幸夫による美術館の建物にも注目

千葉市美術館の建築を設計した大谷幸夫(1924-2013)は、丹下健三研究室に所属し、自身の主な作品として国立京都国際会館や沖縄コンベンションセンターを手掛け、日本のモダニズム建築を代表する建築家です。大谷はかつて川崎銀行千葉支店として使われていた建物を新しい建築で包み込むように保存する方法を提案し、現在美術館の1階にあるさや堂ホールが誕生しました。本展では大谷の仕事や美術館建設当時の資料などを紹介し、土地と千葉市美術館について考えます。



ジョルジュ・ビゴー《稲毛海岸》明治36年(1903)
千葉市美術館蔵



田中一村《仁戸名蒼天》昭和36年(1960)頃か 個人蔵
(千葉市美術館寄託) ©2025 Hiroshi Niiyama



柳敬介《堀江正章像》大正5年(1916)頃
千葉県立千葉高等学校美術館蔵



川崎銀行千葉支店模型(千葉市中央区市民センター時代) たぬま いさお製作(大谷研究所監修)
千葉市美術館蔵 撮影:杉原寛大

関連イベント

■記念講演会「大谷幸夫という建築家」

講師: 藤森照信 (建築史家・建築家) 11月8日(土)14:00より(13:30開場予定) / 11階講堂にて / 先着80名(当日12:00より1階多目的室にて整理券配布) / 聴講無料(要展覧会チケット・半券、招待券、友の会会員証可)

■てくてく千葉美術散歩 (事前申込制)

- ①ご近所編(千葉県庁、千葉県立図書館、千葉県立千葉中学校・高等学校、亥鼻公園などを巡ります)
11月22日(土)13:30-15:30 / 定員:15名 / 申込締切:11月12日(水)
- ②郊外編(千葉大学医学部、千葉寺、青葉の森(旧畜産試験場)などを巡ります)
11月30日(日)13:30-15:30 / 定員:15名 / 申込締切:11月19日(水)
- ③稲毛編(千葉市民ギャラリー・いなげ(旧神谷傳兵衛稲毛別荘)、浅間神社、松林、千葉市ゆかりの家・いなげなどを巡ります)
12月7日(日)13:30-15:30 / 定員:15名 / 申込締切:11月27日(木)

■須田悦弘 公開制作

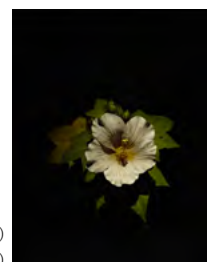
現代美術家・須田悦弘がまる1日かけて《雑草》を公開制作し、完成後、展示室に設置します。作家の精密な木彫技術을 直接間近でご覧いただけます。(作業中に随時休憩をとることがあります。時間内であれば、自由に観覧可能です。)
12月14日(日)10:00-17:00 5階ワークショップルームにて / 観覧無料

同時開催の常設展特集

5階常設展「千葉市美術館コレクション選」にて

10月8日(水)-1月4日(日)特集: 須田悦弘

12月2日(火)-2月1日(日)特集: 田中一村《アダンの海辺》と新収蔵作品



右: 田中一村《アダンの海辺》昭和44年(1969) 個人蔵(千葉市美術館寄託)
左: 須田悦弘《芙蓉》2012年(平成24) 作家蔵(千葉市美術館寄託)



■ 広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。ぜひ、本展をご紹介しますようお願いいたします。
ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAX またはメールにてご連絡ください。
画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1 ジョルジュ・ピゴール《稲毛海岸》明治36年(1903) 千葉市美術館蔵



2 田中一村《仁戸名蒼天》昭和36年(1960)頃か
個人蔵(千葉市美術館寄託)©2025 Hiroshi Niiyama



3 堀江正章《室内草花図》明治45年(1912) 東京藝術大学蔵



4 柳敬介《堀江正章像》大正5年(1916)頃
千葉県立千葉高等学校美術館蔵



5 板倉鼎《千葉町》大正6年(1917) 松戸市教育委員会蔵



6 遠藤健郎《夕日》昭和20-25年(1945-50)頃 千葉市美術館蔵

広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 磯野 行

E-mail : isono@ccma-net.jp

FAX : 043-221-2316

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ（おおよそで結構です 例：5cm 四方、など）：

■画像データ申込（ご希望のデータの番号に○をつけてください。）

- 1 ジョルジュ・ビゴー《稲毛海岸》明治36年(1903) 千葉市美術館蔵
- 2 田中一村《仁戸名蒼天》昭和36年(1960)頃か 個人蔵(千葉市美術館寄託)©2025 Hiroshi Niiyama
- 3 堀江正章《室内草花図》明治45年(1912) 東京藝術大学蔵
- 4 柳敬介《堀江正章像》大正5年(1916)頃 千葉県立千葉高等学校美術館蔵
- 5 板倉鼎《千葉町》大正6年(1917) 松戸市教育委員会蔵
- 6 遠藤健郎《夕日》昭和20-25年(1945-50)頃 千葉市美術館蔵

■「開館30周年・千葉開府900年記念 千葉美術散歩」プレゼント用招待券申込 (ご希望の場合はチェックをつけてください)

☐ 5組10名様分 希望します。

(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談ください。)

チケット送付先

ご住所：〒

問い合わせ先

千葉市美術館

〒260-0013 千葉市中央区中央 3-10-8

広報担当：磯野 愛

Tel. 043-221-2311（代表）/043-221-2313（直通）

Fax. 043-221-2316

E-mail isono@ccma-net.jp

HP <https://www.ccma-net.jp/>

記者レクチャー参加申込書

開館30周年・千葉開府900年記念

散歩 | 美術 | 千葉

記者レクチャー・内覧会

2025年10月31日(金) 14:00～16:00 8・7階展示室にて

報道関係の皆様を対象に披露説明会および内覧会を行います。
展覧会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

13:30～ 8階記者レクチャー会場へのエレベーター稼働・開場
14:00～ 担当学芸員より会場にてご説明
14:15頃～16:00 自由内覧

開会式・テープカット

2025年11月1日(土) 9:30～10:00 1階さや堂ホールにて

参加ご希望の方は下記項目にご記入の上、

E-mail: isono@ccma-net.jp または FAX: 043-221-2316
までご連絡ください。

☐ 記者レクチャー・内覧会

☐ 開会式・テープカット

ご芳名

ご所属

貴媒体名

お電話番号

E-mail

問い合わせ先 広報担当 磯野 愛
Tel. 043-221-2313 (直通)
isono@ccma-net.jp

千葉市美術館
〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
HP. <https://www.ccma-net.jp/>